

リオから品川へ 東京 2020 フラッグツアー開催

～アンバサダーは区民の小谷実可子さん～



「東京 2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」の歓迎セレモニーが平成 29 年 1 月 14 日(土)、品川区立総合体育館(東五反田 2-11-2)で開催され、地元町会の方々ははじめ約 1,000 人の区民が参加しました。

このフラッグツアーは、東京都、東京 2020 組織委員会、JOC、JPC が主催。リオ 2016 オリンピック・パラリンピックの各閉会式で、パエス リオ市長から小池百合子 東京都知事へと受け継がれたオリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグが日本に上陸し、平成 28 年 10 月 8 日(土)から都内全 62 区市町村を巡回しています。そして、1 月 14 日(土)、リオから品川区へと 2 本のフラッグがつながりました。

歓迎セレモニーは、ベリーズによるチアリーダーディングと日野学園吹奏楽部による華やかな演奏によって幕を開けました。フラッグツアーで、生の演奏によるファンファーレが行われたのは初めてのことです。

品川区にフラッグをつないだアンバサダーは、区民でもあり、ソウル 1988 大会のシンクロナイズドスイミング ソロ・デュエットで銅メダルを獲得した小谷実可子さん。小谷さんは「地元の品川にフラッグを届けられて光栄です。世界中のアスリートの脳裏に焼き付くような熱い応援をしてください」とエールを送り、オリンピックフラッグを濱野区長に、パラリンピックフラッグを区民代表として荏原第六中学校の生徒会長 石橋優樹さんに手渡しました。

フラッグを受け取った濱野区長は「東京 2020 大会は“子どもたちへの夢のバトンタッチ”です。東京 1964 大会を経験した大人は、その記憶を子どもたちに話してあげてください」と語り、区立中学校・義務教育学校 15 校の生徒会長たちと一緒にフラッグを大きく振りました。その後、小谷さんによるトークショーも行われ、東京 2020 大会へ向けて、機運を高める機会となりました。

